

目 標

コンテナ苗の活用拡大により、造林コストの削減を図ることで林業の成長産業化を推進する。

取組内容

【コンテナ苗の夏季植栽試験の継続】

令和2年は、優良品種として導入が期待されるクリーンラーチコンテナ苗と普通苗の夏季植栽を7月から9月までの3ヶ月間継続して実施し、植栽樹種の選定及び植栽適期拡大(造林作業の平準化)の可能性とその際のコンテナ苗の優位性について試験を行った。

併せて、植栽例の少ないドイツウヒコンテナ苗の試験植栽も継続して行った。



【コンテナ苗植栽試験等活用資料の作成】

平成30年度及び令和元年度に実施した夏季植栽試験及びドイツウヒコンテナ苗植栽試験について、成長量調査を行いデータを収集した。

【検証結果の情報提供の実施】

令和2年については、以下の会議等で情報提供を行った。

- ①西部森林室林業普及指導事業推進会議
- ②網走西部流域森林・林業活性化協議会(幹事会他)
- ③北の森づくり専門学院(地域見学実習)
- ④網走西部流域森林・林業活性化協議会(森林整備研修)



北の森づくり専門学院見学の様子

結果

7月・9月の活着率については、コンテナ苗・普通苗の活着率に大きな差は出ていないが、8月だけ見ると、コンテナ苗に優位性があると思われる。

規格別	活着率(残存率) 調査結果		
	植栽月日		
	7月3日	8月6日	9月3日
クリーンラーチ コンテナ苗	98%	96%	100%
普通苗	100%	22%	100%

※植栽後、約10日後の活着状況

コンテナ苗植栽試験等活用資料の作成については、次年度の調査結果も含めて取りまとめる予定。

①については、会議の場を通じて地域の林家の方々に情報提供の予定だったが、コロナ禍の影響もあり、会議が林家の方々への個別訪問の形式となった関係で、主催の西部森林室からの個別説明と資料配付の対応となった。

②、④については、会議・研修会が書面開催となったため、資料配付のみとなった。

今年度の総括
次年度の予定

今年度予定したクリーンラーチコンテナ苗の夏季植栽試験については、予定どおり終了した。継続的に実施している成長量調査については、一部の箇所では調査体制が整わず予定したデータの収集が一部出来なかった。次年度の調査については、体制、内容及び方法も含めて改めて検討する。

なお、平成29年から取り組んでいる「成長産業化地域創出モデル事業(網走西部流域)」は、令和3年をもって事業終了となることから、令和3年度は、平成30年度から3年間継続した夏季植栽試験の取組結果を活用出来る形に取りまとめることとしたい。